

概要

- 静岡県西部地域は、全国でも有数の果樹産地であるが、**担い手や栽培面積は減少**しており、産地の将来の姿が危惧される状況にある。
- 西部農林事務所では、**持続可能な果樹産地、生産効率を高めた生産基盤づくり**をめざすべき姿として考え、課題を整理し、解決に向け、取り組んでいる。その中で、持続のために必要な担い手の確保として、**新規就農者の受入**、持続可能な環境に配慮した栽培として**草生栽培の推進**を行っている。
- その結果、**2名の新規就農者を育成**するとともに、**クローバーの草生栽培マニュアル**を作成し、普及を図っている。

具体的な成果

1 新規就農者の受入

- JAとぴあ浜松新規就農受入連絡会に、**温州ミカンコース**を追加し、受入体制をつくった。受入会は、JAとぴあ浜松、8指導経営体、浜松市、西部農林事務所で構成
- 産地の外から**3名の研修生を受入**
- **2名の新規就農者を育成**



指導経営体等を対象とした
スキルアップ勉強会



就農後のフォローアップ

2 草生栽培の推進

- クローバー草生栽培モデルほ場を設置
- **栽培管理マニュアル**を作成
 - ①年間施肥量**45%削減**できた
 - ②栽培手順及び留意点が整理できた
 - ③**2～3年で経費が回収**できる
 - ④ミカンの果実品質や樹体への影響はない
- 近隣生産者も草生栽培に関心を示し、**新たに取組を開始**



草生栽培モデルほ場



栽培マニュアル

普及指導員の活動

1 新規就農者の受入

- 令和4年度
 - 普及指導員より管内のJA及び指導経営体候補に対して、**担い手育成の必要性**や活用できる事業を説明し、**受入体制を検討・整備**。
- 令和5～6年度
 - JAとぴあ浜松新規就農受入連絡会が温州ミカンの研修受入を開始。研修及び青年等就農計画の作成等、**就農準備を支援**。
 - **指導経営体のレベルアップ**を図るため、勉強会を開催。
- 令和7年度
 - 栽培指導等、就農後のフォローアップを実施。

2 草生栽培の推進

- 令和4年度
 - JAみっかび管内にクローバーを播種し、**草生栽培モデルほ場を設置**。
- 令和5～6年度
 - モデルほ場において、管理手法の検討、経費の試算、温州ミカンへの影響を調査し、**栽培マニュアルを作成**。
- 令和7年度
 - モデルほ場及び栽培マニュアルを活用し、普及推進中。

普及指導員だからできたこと

- 産地の実情（栽培面積や担い手の状況、栽培体系等）を把握していることと、各種制度や他地域事例等の情報を組み合わせるといったコーディネーター役を担ったことで、新規就農受入体制の整備や新規就農者を育成できた。
- 生産者、JA、試験研究機関といった関係機関と連携し、**温州ミカン栽培の知識・経験を活かす**ことで、クローバーの管理作業の確認・整理、温州ミカン生育データの収集・分析が行え、栽培管理マニュアルが作成できた。

未来へつなぐ果樹産地の育成

活動期間：令和4年度～（継続中）

1. 取組の背景

静岡県西部地域は、全国でも有数の果樹産地であるが、担い手や栽培面積は減少しており、産地の将来の姿が危惧される状況にある。

そこで、「持続可能な果樹産地」、「生産効率を高めた生産基盤づくり」を目指すべき姿として課題を整理し、解決に向け取り組んできた。今回は、この中で、①新規就農者の受入、②草生栽培の推進について、報告する。

区分	推進項目 (課題)	対象集団	
		JA とびあ浜松柑橘部会	三ヶ日町柑橘出荷組合
持続可能	担い手の確保	①新規就農者の受入	新規就農者の受入
持続可能	環境に配慮した栽培	—	②草生栽培の推進
持続可能	鳥獣被害対策	—	防護柵の設置等
生産効率	生産基盤の強化	改植の推進	基盤・農道整備、改植の推進
生産効率	選果場の機能向上	AI 選果機の整備	AI 選果機の活用

2. 活動内容（詳細）

(1) 新規就農者の受入

ア 受入体制づくり

産地内では担い手が減少し、外部からの新規就農者の受入も検討していく必要があることを認識はしていたが、受入に対しての不安や取組手法がわからず、全く進められていなかった。

そこで、産地の中核生産者や JA とびあ浜松の柑橘指導員を対象に受入に関する勉強会を開催し、実際の事例紹介や活用できる事業の説明等を行った。

生産者及び関係機関で、新規就農者受入についての知識を深めるとともに、受入体制づくりを進めた。



写真1 受入体制検討会

イ 研修生の受入、受入体制の強化

JA とびあ浜松新規就農受入連絡会として、産地外から研修生受入を開始した。研修生に対しては、指導経営体による実習、農林事務所が主催するセミナー等への出席、関係機関による青年等就農計画作成支援等を行った。また、指導経営体や関係機関に対しては、受入側としての資質向上を図るための勉強会を開催し、体制強化を図った。

ウ 就農後支援

就農後、指導経営体や関係機関が連携し、新規就農者の栽培管理状況

等の確認・指導を行っている。

(2) 草生栽培の推進

ア クローバー草生栽培モデルほ場づくり

JA みっかびでは、徹底した除草管理による清耕栽培が主流であるが、近年の気象変動により、集中豪雨による土壌や肥料養分の流亡や夏季の高温乾燥による樹体への影響が懸念されてきた。そこで、JA みっかびや静岡経済農業協同組合連合会、静岡県農林技術研究所果樹研究センターと連携し、グローバーによる草生栽培を検討することとした。

生産者園地において、クローバーを播種し、モデルほ場を設置した。

イ モデルほ場において検証

クローバーの特徴や管理方法等を調査した。また、導入コストの検証や温州みかん栽培への影響を調査し、導入の効果を検討した。

ウ 普及・啓発活動

モデルほ場での調査結果を JA 技術員等へ情報提供を行っている。



写真2 クローバー
草生栽培モデルほ場

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 新規就農者の受入

ア 受入体制づくり

新規就農に関わる各種制度の整理や、研修カリキュラムの作成、指導経営体の選定を行い、令和5年2月、JA とびあ浜松新規就農受入連絡会に温州ミカンコースを追加し、受入体制を整えた。

イ 研修生の受入、受入体制の強化

これまでに、温州ミカンで就農希望の研修生3名を受け入れた。指導経営体は、実際に研修生を指導し、「教えること」の難しさを痛感したことから、勉強会を開催し、関係機関も共に、教える姿勢や気をつけるべきポイント等を学んだ。



写真2 スキルアップ勉強会

ウ 就農後支援

令和6年度、研修生2名が認定新規就農者として、就農した。現在は、新規就農者が順調に経営を継続・発展していけるよう、指導経営体及び関係機関で連携して支援中であるとともに、新たな研修生の募集を行っている。

(2) 草生栽培の推進

ア クローバー草生栽培モデルほ場づくり

モデルほ場を設置することで、近隣生産者の関心が高まり、新規で栽培を開始する生産者も出てきた。

イ モデルほ場において検証

草生栽培のメリットとして、除草作業の省力化や除草剤の削減、施肥

量の削減、土壌の過乾燥防止効果、デメリットとして、雑草除去や害虫対策といった追加作業の発生が明らかとなった。また、導入には費用がかかるが、2～3年で回収できることや、ミカンの果実品質や樹体栄養への影響がないことも明らかとなった。これらの調査結果を踏まえ、栽培マニュアルを作成した。

ウ 普及・啓発活動

モデルほ場での調査を継続するとともに、栽培マニュアルを活用し、関係機関や生産者へクローバー草生栽培の推進を図っている。

4. 農家等からの評価・コメント（新規就農者U氏）

非農家出身なので、就農に必要な畑や倉庫を確保できるか心配だったが、指導経営体やJAからの紹介で、確保することができた。普及指導員は、わからない点について、どうすればよいかを丁寧・親切に指導してくれた。また、関係機関が集まり、あいまいな認識だった点を教えてくれたのも、有難かった。まずは、研修で得られた技術を駆使して、利益を出していくことを目標とする。

5. 普及指導員のコメント（西部農林事務所 主査 竹川幸子）

産地を次世代へつなげていくためには、生産基盤の強化、担い手の育成、気象の変化に対応した栽培管理等、様々な課題があり、今回の取組は、その中の1つである。研修生が就農できたこと、草生栽培のマニュアルができたこと、どちらも生産者及び関係機関との連携により実現できた成果である。日ごろから課題や目標を共有し、共通認識を持って取り組むことが重要だと考える。今後も連携して、新規就農者の育成及び草生栽培の普及推進、その他、課題解決に取り組んでいく。

6. 現状・今後の展開等

(1) 新規就農者の受入

研修希望者の確保に苦慮していることから、募集や産地のPR方法を工夫する。また、引き続き、新規就農者の経営安定に向けて支援していくとともに、受入側のスキルアップを図る。

(2) 草生栽培の推進

引き続き、モデルほ場での調査を継続するとともに、栽培マニュアルによる情報提供やモデルほ場による視覚的情報提供を行い、推進を図っていく。

表1 経費の試算

年次	清耕栽培 (労働費+肥料費)	草生栽培 (労働費+肥料費)
初期費用	0円	41,563円
1年目	81,341円	95,293円
2年目	162,682円	140,938円
3年目	244,023円	186,583円



図1 栽培マニュアル



写真3 JA技術員研修会